



## 孫文と香港

香港のセントラル（中環）からションワン（上環）のあたりを歩いていると、ところどころで「中山史蹟徑」と銘打った赤い標識を目にすることがある。今年ちょうど100周年を迎える辛亥革命。その立役者である孫文（中山）は香港と深い関係があった。

孫文は1866年に広東省の香山県（現中山市）に生まれ、その後ハワイで初等教育を受けたが、キリスト教に関心を持ったことを家族が心配し、帰国させられる。帰国した孫文が中等教育を受けたのが香港の中央書院（現皇仁書院）だった。（なお孫文は結局この香港での学生時代にキリスト教徒になっている。）中央書院を卒業した孫文はまず広州で、ついで香港に創設された西醫書院（香港大学医学部の前身。そのため、中山史蹟徑の起点は香港大学の東門バス停にある）で医学を学び、1892年に主席で卒業、医師となった。しかし孫文

は、医師として人を救うよりも、革命によって社会を根本的に改革することを志すようになる。

1894年には最初の革命結社である興中会をハワイに設立し、翌年には香港にも興中会を組織した。香港興中会の本部はセントラルのスタントン・ストリート（士丹頓街）に置かれ、ここで最初の武力蜂起（「第一次広州蜂起」）が計画された。結局蜂起は失敗し、その後、1911年の辛亥革命の成功まで、孫文たち革命派は幾度もの蜂起と失敗を繰り返してゆくことになるが、香港はおもに広東省内での蜂起にかかわる策定と準備の重要な根拠地の一つとなる。

中山史蹟徑はこうした孫文の香港での足跡をたどったものだ。移り変わりの早い香港のこと、建物の多くは現存していないが、それでも昔と変わらぬままの道の名前や幅の狭い通り、そして街並みの雰囲気の中に、孫文が生きた時代の息吹を感じることができる。

もっとも、植民地時代の香港では孫文と香港の関係はさほど注目されていない。やはり1997年の中国返還を経て、自らの歴史——「香港史」への関心が高まるなか、孫文と香港との関わりも脚光を浴びるようになった。中山史蹟徑の前身は1996年にできたものだが、現在のような標識を整備したのは、ミッドレベルのキャッスル・ロード（衛城道）に孫中山紀念館が開館した2006年のことである。香港人の孫文の「再発見」は、彼らが返還後、あらためて自らの歴史を振り返り、語りはじめたことと無関係ではないのだ。

倉田 明子（香港・中国史研究者）



香港西營盤の中山紀念公園に建てられた孫文の銅像

### 目次

2011年8月 発行

孫文と香港	1
香港いま・むかし「企画座談会」SARSの危機管理に学ぶ	2~3
海と陸 ヴィクトリアハーバーを超える交通	4
「クール・ジャパン」の祭典	5
香港貿易発展局からのお知らせ	
11月、12月は香港へ！香港フォーラムと展示会のご案内、	
12月開催香港エキスポのご紹介	6
連合会・各地協会便り	
連合会：CMMS第8期修了式、第9期開講のご案内、	
Dr. デビッド・ツェ出版記念セミナー	7

東 京：横浜ドラボンポートレース2011に参加、七夕パーティ開催	8
開 西：文化庁懇親行事、文化庁セミナー開催、昼食セミナーを開催	9
中 京：事務局 新規開設のご案内	10
九 州：平成23年度通常総会・講演会・交流会開催	11
山 形：新会長就任のごあいさつ	12
北海道：アジアビジネスサポートプログラム キックオフセミナー開催	12
宮 城：巨大地震大津波が宮城を襲う	13
沖 縄：ノベション&デザイン・テクノロジー・エキスポ2010観感	14
広 島：香港企業招待など多彩な事業計画	15
ハーバープラザホテルからのお知らせ	16



- 出席者：日本香港協会理事・広報副委員長 麻生 雍一郎  
 (敬称略) 香港政府観光局 シニア・マーケティング・エグゼクティブ 山本 恵美  
 香港貿易発展局 東京事務所次長 伊東 正裕
- カメラ：日本香港協会全国連合会 事務局 室田 彩

麻生 日本という国は、60年前には太平洋戦争、直近では東日本大地震やJ R北海道のトンネル火災など、大きい事件・事故が起きるたびに危機管理が問題になります。そこで2003年にSARSが大流行した際の香港の危機管理をテーマに、実際にSARSと直面していたメンバーで座談会をしようという企画が持ち上がりました。私は当時、読売香港社の社長をしており、香港に在住していたのですが、お二人はどこで何をされておられたのでしょうか。

山本 私は1991年からずっと香港政府観光局東京事務所で広報の仕事をしています。SARSに関して言いますと、発生当時の香港における状況を正確且つスピーディに日本の方々に伝えることと、収束後のリカバリーキャンペーンを担当していました。

伊東 私は2000年から2005年まで、日本企業の中国現地法人の広州支店長として広州に駐在、2001年から2003年にかけて広州日本商工会の事務局副局长を仰せつかっておりました。

麻生 先ずSARSに関するデータを時系列的に整理しておきたいと思います。発生源の広東省では2002年の11月頃から「謎の肺炎」騒ぎが起きていると言われていました。2003年2月10日、広州在住の医学部教授が結婚式に出席するために香港を訪れたわけですが、自分でも「恐ろしい病気に罹っていることを把握していて、香港で発症の兆候が出ると「自分を隔離した方が良い」と話していたといひます。この時に広東省側から正確な情報が提供されていれば、香港における初期対応はもっと違っていたはずで、累計感染者1755人、死者299人に及んだSARS禍はもっと抑えられていたと見るべきでしょう。実は、香港には広東省政府や広州市政府の出先機関がなかった。香港基本法第22条に、直轄市などが勝手に香港に出先を置いてはいけない、という規定があって、これも政府間の情報伝達ができなかった一因かもしれません。

山本 今でも良く覚えているのですが、3月上旬のある日、夜の6時頃に香港本局から緊急連絡が入り、間もなく香港で肺炎に関する緊急記者会見が開かれるので待機するようにという指示がありました。それが私のSARSとの最初の接点です。

麻生 SARSの正式名称は「重症急性呼吸器症候群」、通称「新型コロナウイルス」でしたね。

山本 4月2日にWHOが緊急勧告を発表、日本政府も、「不要不急の渡航を延期するよう勧める」との危険情報を発出しました。主催旅行のツアーは全てキャンセルとなり、香港を訪れる観光客は激減しました。

麻生 日本から香港へ旅行客が来なくなったことで、読売新聞衛星版のフライト向け・ホテル向け販売部数は激減してしまいました。宅配用についても、日本人の帰国者が相次ぎ、日に日に販売部数が落ちていきました。日本人は、今回の震災後に海外に脱出した人達を批判しますが、SARSの際に真っ先に帰国したのは、ほかでもない日本人でした。事務所の撤退や一時閉鎖が相次ぎ、収束した後、帰国者がなかなか戻らなかったのも日本です。日本人学校も長期休校になり、再開されたのは夏休み明けの9月になってからでした。

山本 香港人は従来マスクをする習慣がなかったのですが、あの当時は皆がしていましたよね。日本のテレビでは特にマスクをした人がいっぱいいる映像ばかりが流れ続けていました。風評被害のパターンは日本も香港も同じです。マスメディアの報道はどうしてもパニック的なものになりがちです。

麻生 私が当時住んでいたマンションの階下に薬局があったのですが、マスクを求める人が列をなしている光景に出くわしました。200人くらいは並んでいたのではないのでしょうか。

私も列に並んでいたのですが、やっと自分の順番が来たと思ったら、ペラペラのマスクが3枚で100ドル、香港人の商魂逞しさに驚いたものです。

伊東 広州はSARSの発祥の地であるにも拘らず、のんびりしていましたね。酔を焚くと効果があるとの噂が流れて、町中のお店の棚から酔が姿を消した話は有名ですが、広州ではマスクをしている人は殆どいませんでした。私の会社のナショナルスタッフがマスクをしてタクシーを拾おうとしたら、逆にSARSの患者だと思われて乗車拒否に遭ったという笑い話があります。そういう意味では香港と広州は対照的だったのではないかと思います。

麻生 一時帰国で日本に避難した人達の話を見ると、ずっと部屋に閉じ込められて外出は許されず、食事も部屋で摂られるなど「軟禁状態」におかれたという人も少なくなかったようです。帰国した人は、これじゃ日本に帰らないで香港にいた方が良かったとこぼしていましたね。

伊東 私の会社で当時香港に単身赴任していた方がおられたのですが、ちょうど4月が帰任のタイミングで成田に着いたのですが、自宅に電話をしたところ、暫く成田のホテルに泊まって家には近づかないで欲しいと言われたというエピソードもあります。

山本 日本も香港も暫く混乱状態が続いていたので、情報を迅速且つ正確に把握して発信することが必要でした。香港政府観光局のウェブサイトでは、日々最新の患者数・死者数をアップしていました。

麻生 初動の対応はともかくとして、その後の香港の衛生当局の対応は的確で、スピーディーでした。銅鑼湾の繁華街に大きなカラーモニターが設置されているのですが、そこに香港政府広報として毎日SARS情報がアップされていました。もちろん衛生当局のウェブサイトも日々更新されました。いつ、どこで(ビル名・フロアまで)、何人発症者が出たか、累計発症者数、死者数が日々公開・更新されるわけです。発症者が1人でも出るとそのビルからは全員が退去せられる、地下鉄の駅で発症者が出たら駅が封鎖され、ロープが張られて構内には入れなくなるなど、香港政府の対応はとにかく徹底していましたね。

伊東 情報公開をきちんとするから、信用されるんでしょうね。そして、行政執行力の強さと徹底ぶり、今の日本の政府は香港から学ぶべきことが多々あると思います。

山本 1日当たりの発症者数が100人を上回る日もあったのが、5月中旬になって30~40人のレベルになり、それをリアルタイムで見ていた市民もSARSが収束に向かっていくことを実感したと思います。香港政府もいち早くリカバリープランに向けて動き出しました。

伊東 私は、広州にいて100名近いローカルの営業マンを管理していたのですが、日本から派遣されている身とは言え、自分だけ日本に逃げ帰ると言う考えはありませんでした。一方で帯同家族は日本に帰すという動きが日本企業の間であったのですが、こういった前例のない事態に直面した時に即断即決できた会社は少なかったのではないのでしょうか。日本企業の経営スタイルというのは中央集権型即ち本国の本社が権限を持ち、現地で決められることは極めて限られているというケースが多かったように思います。家族の帰国となると航空券や宿泊などコストがかかるということもあり、その費用を誰が負担するのか、他の日本企業はどうしているのか、そういったやり取りにもものすごく時間がかかる上に、最終的に現地の事情が分からない人が判断を下すわけです。私の場合は、家族を帰すタイミングが遅くなった(4月上旬)ため、10日

## ～ SARSの危機管理に学ぶ



SARSが広がった2003年当時を振り返る山本さん、麻生さん、伊東さん（左から）

後にはまた家族を戻すということになったと記憶しています。

**麻生** 福島原発事故に対する政府や東電の対応を見ていると、指揮命令系統や責任の所在がはっきりしない、中央集権的でありながら機能していないという印象を受けます。

**伊東** 香港経済はSARSで大打撃を被ったわけですが、読売新聞さんはどうだったのでしょうか？

**麻生** 発行部数の減少、広告収入の減少で売上高としては、かなり厳しい状況でした。ところが、2004年3月期の2003年度決算は、それまでの赤字を脱して黒字になったのです。なにしろ収入減ですから、コストを抑えるしかないということで、印刷費、物流費、販売代理手数料から事務所家賃に至るまで、全て1年契約で縛られてはいたのですが、ダメもとで減額の交渉に赴きました。そうしましたところ、印刷費も物流費も販売手数料も安くしてくれ、事務所家賃に至っては1ヶ月分がタダになりました。会計事務所を変えて交渉したら会計監査の費用についても7割も安くなりました。香港は基本的には契約社会です。しかしながら、困っている人を見ると、「互助精神」ということなのでしょうが、とてもフレキシブルな対応をしてくれる、「これが香港なんだ」と目から鱗が落ちる思いでした。

**伊東** ホテルの価格ひとつとっても、香港は「ダブルスタンダード」即ち「二重価格」だと言われることがありますよね。

**麻生** マーケットに対して敏感ということでしょうか。顧客が出せるのであれば相応の値段をつける、出せないと思えば出せる水準まで直ぐに値段を下げる、そういったフレキシビリティは香港の強みでしょうね。

**伊東** 何もかも硬直的な日本とは対照的です。SARS収束後ですが、香港はかなり大がかりな観光誘致キャンペーンを打ったと聞いています。

**山本** 観光は香港にとっての主要産業の一つですし、観光収入は香港の域内GDPの2.6%を占めています。5月23日にWHOが香港への渡航延期勧告を解除すると、直ちに日本で記者会見を実施し、6月3日には香港特別行政区政府が日本の大手新聞に広告を出稿しました。SARSの香港・広東省における「封じ込め」が確認でき、市民生活が平常どおりに戻ったことを告知する内容でした。更には、香港経済貿易代表部の駐日首席代表と香港政府観光局の日本・韓国地区局長が、東京を皮切りに大阪、札幌、福岡、鹿児島、沖縄、名古屋を歴訪し、香港の渡航解禁をアピールしました。

**麻生** 随分と精力的に動かれたんですね。香港政府は観光誘致のため巨額の財政支出をしました。

**山本** 6月30日にジャッキー・チェンを観光大使に任命、7月13日には総額2.4億円が当たる「ウェルカム香港」懸賞キャンペーン（340万香港ドルの不動産、300万香港ドル相当の商品券、高級車や香港往復のビジネスクラス航空券が当たるという豪華内容）をスタートしました。7月22日には、政府・業界・市民が一体となったリカバリーキャンペーン「HK Welcomes You」（総額60億円）を発表、観光大使であるジャッキー・チェンとともにオーブントップバスに乗って市内へ移動するツアー「Together with Jackie」には、日本から200名が参加しました。ユーミン

も、ノーギャラでTVCMに出演、シャングリラ香港公演も開催されました。有名なレーザー・ショー「シンフォニー・オブ・ライト」の前身である「ストラト・ファンタジア」も2003年に始まりました。香港はやることにメリハリがあって、パフォーマンス、プレゼンテーションがとても上手です。

**伊東** 日本も震災後の観光客誘致に本腰を入れるのなら、もっと資源を投入しなくてはならないと思います。香港で人気のある日本人アイドルが羽田空港でツアー客を出迎えるとか、そういう大胆な発想が必要な気がします。SARS後の香港の経済状況についてはどうだったのでしょうか。

**麻生** 2003年7月1日、返還6周年を迎え温家宝首相が香港を訪れて、経済貿易緊密化協定(CEPA)をプレゼントしました。所謂香港と本土間で結ばれたFTAですが、これは、2004年以降も適用範囲拡大が大幅に進んでおり、多くの分野で香港企業は、本土において内国民待遇を受けられるようになりました。

**伊東** 中国本土からの個人旅行者の大幅な規制緩和も香港経済を潤すことになりました。2004年に大都市戸籍保有者の個人旅行が解禁されて来訪者が1000万人を突破、昨年度実績では、延べ2200万人もの本土富裕層が香港を訪れています。

**麻生** 返還直後からSARSのあった2003年までは、香港にとっては幸せな時代とはいえなかった。不動産価格が03年/97年比で約1/6、株式(ハンセン指数)は約42%下落、失業率も2.3%から8.3%まで跳ね上がりました。香港人の誰もが「こんなはずじゃなかった」と嘆いていた時代です。

**山本** 風水は20年サイクルと言われますが、香港の風水師によると、2003年は香港にとっての新たなスタートの年だと言われていたそうです。

**麻生** 過去を一掃して、新しく生まれ変わる契機がSARSであったと言えるかも知れませんね。2003年7月、董建華行政長官が治安立法案を持ち出し、自由が奪われることを恐れた香港市民が50万人規模の集会を開きました。結果的に行政長官は辞任に追い込まれるわけですが、その後香港は発展の軌道に乗り、好景氣を迎えるようになります。

**伊東** 返還後も中国本土とは一線を画して独自性に拘り続けた香港が、より中国との一体化を強めたのも、SARS後からです。「香港の繁栄を維持する」という点において中国中央政府と香港の思惑が一致したからでしょうね。香港衛生署(厚生労働省に相当)署長(当時のマーガレット・チャンが、1997年の鶏インフルエンザ対応に続き、SARS対策の陣頭指揮を執っていたのですが、その功績で、2003年8月にWHOへ転出し、2006年11月には第7代の事務局長に就任しています。SARS対策が国際的にも認められたということで、香港にとっては大変名誉なことだと思いますが、中国政府の強いバックアップがあったとも言われています。

**麻生** 改めてSARS当時の香港の状況を総括すると、危機管理に留まらず、今の日本にとってヒントになることが多々あることに気づきますね。当時も今も香港と関わっている我々としては、微力ながらもさまざまな場面で必要な情報発信をしていければと思います。本日はどうも有難うございました。



日本香港協会広報委員 小柳 淳

## 海と陸 ヴィクトリアハーバーを越える交通



忙しい香港でひととき心休まるスターフェリーの短い航路

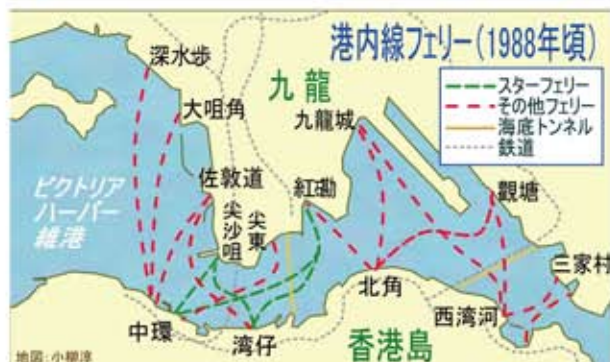
今年4月1日にスターフェリーの紅磡航路が廃止となった。紅磡～中環と紅磡～灣仔がなくなり、スターフェリー航路は尖沙咀～中環と尖沙咀～灣仔の2ルートだけとなった。2006年11月の中環碼頭(埠頭)移転のときに起こった大規模抗議運動のような目立った動きもなく、静かに幕を閉じた印象である。こちらは、現代香港市民が共同で体験してきたという、香港アイデンティティのキーワードとして近年よく語られる「集體回憶(集合的記憶)」を刺激するものではなかったのだろうか。

九龍と香港島の間を横たわるヴィクトリアハーバーを渡る航路は港内線と呼ばれるが、スターフェリーの尖沙咀～中環間を除くとどの航路も利用者が少ない。この紅磡航路も既に歴史的使命は終えていたのかもしれない。かつては港内各地を縦横に結んでいた港内線のフェリーは、特に1980年代以降の香港の飛躍的發展に反比例するかのよう縮小を続けてきていたのだ。最初にハーバーを越える海底トンネルができたのが1972年、地下鉄が初めて海を越えたのが1980年。その頃はまだフェリーへの影響は限定的だったようだ。それまでの香港の交通は、ハーバーを挟んで兩岸の要所要所にある埠頭とバスターミナルがセットとなっていて、九龍と香港島各地とがバス～フェリー～バスの接続で機能的ネットワークを形成していた。航路によっては載車渡輪というカーフェリーが就航していて、自動車やトラックまで対岸に運んでいた。北角や灣仔、九龍城のフェリー埠頭の目の前には広大なバスターミナルがあるが、これらがバスとフェリーの組合せが香港交通の主役だった頃の雰囲気をも今に伝えている。

その後、急激に港内線のフェリー航路は衰退に向かうのだが、原因は主に海底トンネルと埋立の2点であった。現在ではハーバーの下を道路と鉄道がそれぞれ3本、つまり6本もの海底トンネルが通っている。埠頭でフェリーと接続していたバスに、海をくぐって九龍と香港を直接結ぶ「過海隧道路線」がとて

増えた。埠頭で2回乗換をしていたのがゼロになったのだから、便利で速くなるのは当然である。もうひとつの埋立の進展は、埠頭そのものを無くしてしまうのでフェリーにとっては致命的だった。以前は埋立によって海岸線が沖に前進すると、そこに新たに埠頭が造られた。19世紀以来その繰り返しだったのだが、1990年代の西九龍の大規模埋立では埠頭の移転はなく、佐敦道、大角咀、深水埗など九龍側の埠頭と航路は全滅となってしまった。時を同じくして香港の交通は鉄道へのシフトが始まっており、海と陸の組合せはオールドファッションになっていたのだ。何年前かにスターフェリーの輝星(Shining Star)号が改造されて2階前後がオープンデッキの遊覧船タイプになり、定期航路から外れて“維港遊”という時間料金のハーバークルーズが始まった。フェリーの需要が交通機関から観光施設へ変化しているのが分かる。今年の紅磡線廃止で海上交通ルートの役割がまた大きく減少したことは確かである。

都市内に横たわるハーバーは交通のネックであるとともに、兩岸に異なる個性をもつ街を育て、香港の魅力を高めてもきた。現在では海の下をハイスピードで往来することの方が普通になってしまったし、海上の何倍何十倍もの人が海底を通る。でも、この忙しい高密度都市の生活にあって、波に揺られて暫しフェリーの船客になるのは、都市のパワーに圧倒されずに心のバランスをとる、短くも豊かな時間だった気がする。効率的移動も便利ではあるが、ときには僅かに残った海上ルートから、兩岸に薄水色の蟹気楼のように並ぶ超高層ビルの屏風を眺めるのも香港の楽しみである。



港内線フェリー (1988年)



港内線フェリー (2011年)

## 「クール・ジャパン」の祭典 C3香港展示会 現地レポート

日本香港協会在香港会員 水野慎一郎  
(スパーク・プロモーション香港)



ステージイベントでは、地元の多くの香港ファンが集まり非常に盛況であった

「日本語でいいですよ。私の好きなキャラクターは…」「!？」

ワンチャイの展示会場でアンケートを行っていた私は面食らってしまった。たどたどしい広東語で日本のアニメ・漫画・ゲームの中から好きなキャラクターを何とか聞き出そうとすると、入場者のうち、5~6人に1人は日本語で答えてくれる。「アニメを見て日本語を勉強しています」など、日本のポップカルチャーに興味を持つ人が非常に多い。今年3月11日、日本のアニメ・漫画・ゲームを一堂に集めた展示会「C3 in Hong Kong 2011」でのことである。(以下、略称「C3香港」)

海外で「クール・ジャパン」(日本のカッコいいポップカルチャーを表す言葉)と評される昨今であるが、香港でも、特に若い世代の日本アニメ・漫画・ゲームへの人気は相当に高い。ワンチャイの会議展覽中心(HKCEC)にて開催されたC3香港は、毎年夏に日本で行われているキャラクター商品の大型展示会の流れを汲むもので、メディア会社である創通が主催者である。今年度は日本のコンテンツ企業を代表する約50社が香港に集まった。ちなみに「C3」とはC(Characterキャラクター)、C(Culture文化)、C(Contentsコンテンツ)の3つの「C」を表す。

私は秋葉原観光推進協会(ATPA)の公式キャラクターについての現地プロモーション活動を、キャラクター商品の企画製作・販売を行うコスパ・グループ協力の下、C3香港で行わせて頂いた。最初的一幕はその時のリサーチの様子である。いわゆる「マニア」「オタク」カルチャーの聖地と言われる秋葉原を世界各国代表のキャラクターで紹介し、秋葉原コンテンツの商品ブランド価値を高める、というのが狙いである。

C3香港の入場者の年齢層は10代後半から30代後半ぐらいまでで、男性が7~8割と多かった。広東省など中国からの入場者も見受けられた。各ブース展示は最新のアニメ・漫画・ゲーム紹介と、それに関連

するキャラクター商品(フィギュアなどの玩具、文房具、Tシャツやバッグなどの衣類や日用品など)の物販が主である。入場者は日本から出展してきた企業の最新の商品を探求めて、展示会の開始時間早々から長い列を作って買って行く。中にはキャラクターのデザインが施された特製クッションなど(1個約1000香港ドル相当)を平気で買って行く人もいた。限定品のコーナーでは、一体5000香港ドル以上もするフィギュアに幾つも「Sold Out」(予約済み)のラベルが貼られていた。香港でも「マニア」「オタク」層の購買力には目を見張るものがあり、日本発キャラクター高額商品の香港~広東地区での市場発展性は充分にあることを窺わせた。

さらに感心したのは香港の「マニア」「オタク」の人達は実に日本のアニメ・漫画・ゲームの内容を深く、詳しく知っていることである。アンケートで好きなキャラクターを聞くと、仲間同士で集まってあのキャラクターがいい、いやあれでもないこれでもない、と楽しそうに議論した揚句、あまり聞いたことのないアニメや漫画のキャラクター(本人にとっては非常に大切な存在なのだろう)を挙げ、しかも日本語のひらがな、カタカナを使って上手に書いてくれるのには驚く。日本でも外国語や異文化を学ぶ際に、その国のポップカルチャーへの関心が強い動機になると言われるが(例えばビートルズの音楽から英語を勉強するなど)、日本語や日本文化を紹介する媒体として、アニメ・漫画・ゲーム等のポップカルチャーは今後も大きな役割を果たすことができるのではないか。

なお展示会初日の午後、宮城県沖での大地震が起き、場内の人々に対しても大震災の告知がなされ、2日目の開始時には被災者の方々に対して全員黙とうの時間が捧げられた。ステージイベントを行う予定であった幾人かの声優・歌手は来港キャンセルとなったが、「巨人の星」や「聖闘士星矢」「機動戦士ガンダム」の主人公役として有名な声優の古谷徹氏はイベントに出演し、数々の名セリフを披露しながら、「来られなかった人たちの為にも頑張りたい」と会場を大いに沸かせた。ステージ前におそらく2000人は集まったであろう香港のファンに向けて「みなさん、日本ガンバレ! お願いします!」と求めた氏に応じ、一緒になって日本語で「ガンバレ!」「ガンバレ!」と手を振り上げて応援していた観客の姿が私の目に今でも焼き付いている。



会場内、キャラクター商品の物販ブース。入場者は男性が7~8割ほど。

## 香港貿易發展局からのお知らせ

### 11月、12月は香港へ！香港フォーラムと展示会のご案内



国際商業会議所会長ビクター・フォン氏による講演（2010年）

今年で開催第12回目を迎える「香港フォーラム」は、2011年11月29日（火）～30日（水）の二日間に亘り、香港のコンベンションセンターにて開催されることになりました。

香港フォーラムとは、世界24カ国/地域に跨る33の香港ビジネス協会から構成される香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide）の全メンバーが一堂に会する年1回の世界会議です。二日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ネットワーキングドリンクセッション、ワークショップ、視察ツアー等多くのイベントが行われます。

12回目の開催となる今回は、ドナルド・ツァン香港特別行政区政府行政長官やノーマン・チャン金融管理局長官等の登壇が予定されるなど、例年以上に充実したプログラムになっております。また、香港や中国の政府・企業関連の最新情報が生で聞ける講演会が多数用意されています。もちろん、毎年フォーラムのラストを盛大に飾るフェアウエルディナーも健在。昨年はヴィクトリアピークのレストラン「カフェ・デコ」にて、100万ドルの夜景を見下ろしながら、世界各地の参加者と交流する場が設けられました。また、フォーラム前日の11月28日（月）は日本香港協会の恒例イベントである、各地協会報告会と全国協会交流会も開催する予定です。毎年約100名の会員が全国から集まり、お互い情報交換や交流を深めることができ、フォーラム前には相応しい交流の場となっています。

フォーラム終了後のオプショントリップは、ハイテク産業開発区である惠州と深圳の前海深港現代サービス業合作区を巡る充実の2日間（12月1日（木）～2日（金））を予定しています。企業の視察、両市政府との食事会、その他観光を含むツアーになっており、フォーラムの余韻が冷めないうちにぜひご参加下さい。

昨年の香港フォーラムでは2009年に引き続き、日本香港協会からの参加者数が世界No. 1となり、2年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞し

ました。香港フォーラムでは全世界のメンバーと出会い、香港における最新ビジネス情報等を収集するには最適のイベントです。参加料は1人につき800香港ドルとなっていますが、9月1日までにお申込をいただいた方には3割引の特別料金が適用となります。皆様のご参加をお待ちしております。

詳細は公式ホームページ：

<http://www.hkfederation.org.hk/forum/forum2011/> よりご覧いただけます。お問い合わせは各協会または全国連合会事務局まで。

### 12月開催香港エキスポのご紹介

香港フォーラム後の12月1日（木）～3日（土）には、香港コンベンション&エキシビション・センター（香港島ワンチャイ）に於いて、香港貿易發展局主催の展示会「イノベーション・デザイン&テクノロジー・エキスポ（IDTエキスポ）」と「世界中小企業エキスポ（SMEエキスポ）」が開催されます。

IDTエキスポは、最新技術やデザイン・ソリューションを提供、貿易、製造及びサービス・セクターの潜在能力を引き出し、世界市場への進出を支援するワールド・クラスの展示会です。展示会期間を含む、11月28日（月）～12月3日（土）の1週間は香港デザインセンター・香港貿易發展局主催のデザイン・オブ・デザイン・ウィークが開催されます。期間中はアジア・全世界のデザインハブとして機能する香港に、著名なデザイナーやビジネスリーダーが集結、フォーラムや教育プログラムを実施するとともに、香港各地で様々なデザイン関連のイベントが開催されます。

世界中小企業エキスポは、世界各地からの出展者・来場者が集まり世界中の中小企業を繋ぐ強力なワンストップマーケットプレイスへと成長しています。特に中国本土でのビジネスサポートへの需要が高まる中、SMEエキスポでは中国本土企業とのネットワーキング構築を支援しています。

香港フォーラムと合わせて、同時期開催のイベントにも是非ご参加ください。詳細については香港貿易發展局東京事務所（Tel：03-5210-5850/e-mail：tokyo.office@hktdc.org）または大阪事務所まで（Tel：06-4705-7030/e-mail：osaka.office@hktdc.org）



世界中小企業エキスポ2010

## CMMS第8期修了式、第9期開講のご案内

昨年6月より約10か月にわたり開催された、第8期チャイニーズ・マネージメント&マーケティング・スクール(CMMS)は、この度の東日本大地震の影響を受け、当初予定されていた3月31日より約1か月半遅れの5月12日に無事修了式を迎えることができました。



二松学舎大学 渡部和則学長による修了式開会のご挨拶

賤前宏日本香港協会全国連合会会長より開会のご挨拶

今回は受講生総数38名のうち全体の48%にあたる、18名の方が7割以上の出席率をもって無事修了と認定されました。修了式には渡辺和則二松学舎大学学長をはじめ、賤前宏日本香港協会全国連合会会長、原田光夫NPO日本香港協会理事長、古田茂美全国連合会名誉事務局長より修了生へのお言葉を頂いた他、賤前会長から修了証書と記念品が授与されました。また、式の後半には修了生全員が、それぞれ約3分のスピーチで、この一年間の授業について思い思いの心情を語りました。今回のCMMSは二松学舎大学の教室を借りて授業が行われたため、冬休み、春休み以外の時期、(少し中途半端にCMMSの授業中に鳴る)大学のベルが、受講生の皆様の学生気分を更に盛り上げる演出に一役買っていたようです。



修了式における第8期CMMS受講生

最後に第8期修了生みらかホールディングス株式会社取締役執行専務田澤裕光氏より寄せられた感想文を紹介させていただきます。

CMMSの第8期の講座が本日で終了と言う日を迎えて、非常に感慨深い想いと同時に最後に思いっきり詰め込み学習をしたので燃えつき症候群の様な気持ちになっています。孔子の儒教の思想が長い歴史の中で中国の文化や政治・経済を始めとするあらゆる行動文法の根底にあり、面子、関係、人情の三大要素を理論と肌感覚で無意識に重要視しながら人間を外人、熟人、自己人にカテゴライズして仲間の富と成長を掴み取る華人の合理性をつくづく感じ取る事が出来ました。また中国とりわけ香港の、税務、法務、会計と言った経営に不可欠な知識や政治的な背景を踏まえた経済の現業と将来展望、そして実践的な経験談を連続して一気に学んでみると全体的な体系がおぼろげながら見えて来る様な気がしました。特に私の場合は講義の合間に北京の会社での日々の実践がありましたから、今日学んだ事を明日に実践してみると言った

環境にあり、机上の理論と目の前の現実を結びつける事が出来た様に思います。

“関係”の重要性もさることながら、特に“面子”の重要性について深く考えて来なかったために先に進める事が出来なかった課題も、北先生の講義の事例の様に気持ち的には不条理ながら相手の面子を立ててやると、不思議なくらい進む事も経験しました。

CMMSの途中で他の仕事が忙しくなり通うのが厳しくなり挫折しそうになりましたが、多くの受講生の方々の頑張っている姿や講義終了後の楽しい語らいのひと時が心の支えとなりました。とにかくこの歳になって学校に通い、素晴らしい講義を受け、議論し、素晴らしい仲間と楽しい1年間を過ごせた事は一生の素晴らしい思い出になりました。

第9期となる来期CMMSはいよいよ9月1日開講です。今回の講義は東京・大阪間を双方向ビデオ会議システムによる同時中継で行います。

カリキュラム面では前期からの理論編、実践編に加え、新たに語学編の授業が始まることになりました。語学編ではビジネス中国語として、中国企業や政府機関との交渉時に役立ち、商談を円滑化し、相手との距離間を縮めるのに便利な会話の秘訣を、中国古典思想や文学の中からご紹介すべく、文学編、思想編などに分け、文学編では「論語」、「孫子」、「三国志」、等、思想編では「老子」、「荘子」、「韓非子」等の教材を用いて中国文化思想にふれて頂く予定です。皆様のお申し込みをお待ちいたしております。問い合わせ先：(東京)日本香港協会全国連合会

TEL:03-5210-5901 FAX:03-5210-5860

(大阪) 関西日本香港協会

TEL:06-4705-7030 FAX:06-4705-7015

詳細は公式ホームページ:

<http://www.jhks.gr.jp/school/index.html>

## Dr. デビッド・ツェ出版記念セミナー

2011年7月7日に東京中小企業投資育成株式会社主催、日本香港協会、香港貿易発展局共催の、香港大学商学院華人経営研究センター所長 Dr. デビッド・ツェ出版記念セミナーが、東京中小企業投資育成株式会社の大会議室で開催されました。中国ビジネスを理解するのに欠かせない行動文法である「グアンシ(関係)」を解説する著書「グアンシ」がこのほど日本初出版され、著者自らの出版記念セミナーとあり、当日は200名近くの方々が出席されました。中国経済市場を理解するという大きな需要を物語るべく、大盛況な講演会となりました。



Dr. デビッド・ツェのセミナー会場風景

## 横浜ドラゴンボートレース2011に参加



力走する日本香港協会「飛龍」艇（手前）



横浜開港150周年記念パレード

1994年に横浜開港祭のマリンイベントとして初めて開催された横浜ボートレースは今年で早くも第18回目を迎えました。1週目は台風の中、また2週目は絶好のドラゴン日和の中、横浜山下公園で2週4日間(5月28日(土)、29日(日)、6月4日(土)、5日(日))にわたり約160のチームが参加して開催されました。

日本香港協会は、6月5日(日)の「香港カップ」に「飛龍」、「飲茶」、「九龍」の3艇で参加しました。日本香港協会の垂

れ幕の下、100名を超える会員が山下公園に集まり、暑い日差しの中、皆で出場艇を応援しました。1艇2レースの出場。回を重ねる毎に成績を伸ばし、各チームとも健闘しましたが、惜しくも「九龍」9位(1分30秒14)、「飲茶」10位(1分32秒93)、「飛龍」12位(1分34秒37)の成績でした。昨年は、一番成績の良かったのが「九龍」の13位でしたから毎年成績を更新しています。来年の更なる飛躍にご期待ください。

## セタパーティー



昨前会長と握手する祝賀総儀(ジェニー・チョック)氏



「愛は国境を超える チャリティイベント311」の上映

日本香港協会恒例のセタパーティーは7月7日木曜日に東京赤坂一ツ木通りの上海大飯店で80名を超える会員が出席、盛大に開催されました。

冒頭の挨拶で原田理事長が香港特別行政区駐東京経済貿易代表部(ETO)首席代表・祝彭婉儀(ジェニー・チョック)氏が8月末を持って香港に帰任される事を紹介、引き続き、昨前会長から祝首席代表の在日中の功績と日本香港協会への協力に対してお礼の言葉と記念品が進呈され、祝首席代表の答辞と乾杯で開宴されました。

会場のスクリーンでは、香港の人気歌手、ジョナサン・ウォンの日本デビュー曲、「君は薔薇より美しい」(布施明が1979年に発表した名曲のカバー)のビデオが映されました。続いて、4月1日に香港で行われた東日本大震災、被災者支援の「愛は国境を超える チャリティイベント311」の

模様が主催者である香港電影導演會から特別な許可を得て上映されました。ジャッキー・チェンの呼びかけで、香港、韓国、日本の歌手や俳優、200人以上が集結。ジュディ・オング、中村雅俊、AKB48のメンバーなども参加して、ひと晩で「2億円」を超える寄付金が集まったそうです。

冒頭の前田理事長の挨拶でも東日本大震災に際して、香港を含む多くの国々からの援助に対しての謝意がありましたが、このビデオクリップの放映によって改めて香港の皆様にお礼を申し上げる仕儀となりました。

続く恒例のラッキードローは60本の豪華賞品、特賞のキャセイパシフィック航空提供のアジアマイル10万マイル(ビジネスクラス香港往復航空券2名分相当)とKowloon Hotel朝食付宿泊券(ツインルーム2泊)は日本香港協会の市橋金之助理事が射止めました。

### 「東日本大震災」義捐金

当協会も、微力ながら復興支援の意向表明の一環として、前期広東語教室受講生からの一部拠金を含め、義捐金50万円を宮城日本香港協会を通して被災地へ贈らせてもらいました(事務局)



## 関西日本香港協会事務局

## 文化部長懇親行事

文化部長主催の会員懇親行事として、6月13日に大阪で大人気の大満天神繁昌亭の落語を楽しむ会を実施しました。田島等理事の友人で以前、当協会のセミナー講師をしていただいた、三代目桂春蝶師匠が出演する「桂春蝶・柳家花緑二人会～東西二世の激突」を35名の参加者が大いに楽しんだ大変愉快的な会でした。

## 文化部長セミナー開催

4月26日に「ファッション業界における香港と日本の役割—そのDEEPな現状と未来—」と題した文化部長セミナーを香港貿易発展局のセミナー室で開催し、42名の参加者を得て盛会でした。

講師の当協会理事・文化部長の田島等氏(ディー・エヌ・エー株式会社の代表取締役)は株式会社ワールドでメンズ・レディースブランドのマーチャンダイザーを務められ、独立後は数多くのブティック等の小売業に成功、学校法人上田女子服飾専門学校や学校法人大阪総合デザイン専門学校の顧問の他大阪市立大学大学院経営学研究科の講師などをしてマーチャンダイジング・プロデュース・コンサルティングを行い、クリエイティブディレクター、コミュニケーションデザイナーとしてもファッション業界の最先端で活躍しておられます。香港や中国の上海、韓国などに度々出張しておられ、実体験に基づくお話は大変興味深いものでした。

田島氏は講演の中で、本年度後半の流行ファッションのテーマの内容とその決定プロセスを解説し、世界や日本の人口統計(過去と未来予想)に基づき世界人口69億人の内約60%のアジア40億人のマーケットが今後益々重要になると強調されました。新中間所得層が急速に増えている最重要マーケットの中国や香港で日本企業が出遅れていることの原因を、日本で売れているものは中国でも売れると安易に考えている点にあると指摘され、韓国企業がソウルの東大門市場を中心に日本の最先端ファッションを中国や香港の消費者ニーズに合った製品作りでたたかいて販売しているショッキングな実情を紹介されました。



「ファッション業界における香港と日本の役割」で講演する田島 等氏

## 昼食セミナーを開催

関西日本香港協会では、新しい試みとして会員の交流と香港・中国ビジネスの勉強を目的にした昼食セミナーを6月2日に米国ロサンゼルスで超有名なレストラン「Lawry's The Prime Rib」で開催しました。24名が参加し、約40分間食事を楽しんで交流した後、当協会理事・華人経営経営研究部主任研究員の馬場正修氏(コンサルティング会社、株式会社貿易人の代表取締役)に「重要性を増す香港と華人ネットワークビジネス～日系企業は華人圏ビジネスに如何に取り組むべきか～」というテーマを解説してもらいました。馬場氏は三井物産時代に中国青島事務所代表を経験しておられ、日本貿易振興機構(JETRO)の貿易・投資アドバイザーをされました。当協会が主催したチャイニーズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS)の第2期修了生で、CMMS卒業後もCMMSのOB中心に毎月華人経営研究会を主宰してこれ、中国ビジネスのコンサルティング業務や講演で活躍しておられます。今回のセミナーは馬場氏の研究成果発表会にもなりました。



「重要性を増す香港と華人ネットワークビジネス」で講演する馬場 正修氏と真剣に聞き入る参加者の皆様

木全会長の開会挨拶の後、たまたま業務出張で大阪に来られた香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏が飛び入り参加され、9月開講の第9期CMMSが新しく導入されたテレビ会議システムで東京と大阪で同時受講できるようになったとの説明をされ、乾杯の音頭をとられました。素晴らしい雰囲気のレストランセミナー室で美味しいローストビーフとワインをいただきながらお互い話も弾み、有意義な交流ができました。

馬場氏は講演の中で、3月14日に北京で閉幕した中国の全国人民代表大会で採択された第十二次5ヵ年計画(2011-15年)の中で位置付けされた香港に関する重要な情報について、中国政府が香港とマカオの長期的な繁栄と安定、競争力向上、新興産業育成を支援し中国本土との経済協力を深化する具体的内容を説明、香港の重要性が増していると説明されました。また、豊富な統計資料も提供され、中国・アジア市場の現状とその特質、中国の対アジア戦略、市場の中心に位置する香港の戦略性、21世紀の中国・アジア市場におけるマーケティング戦略、華人経営論の重要性—関係主義、日系企業のアジア経営論構築の必要性などの重要テーマを時間いっぱい詳しく解説し、最後に華人ネットワークへのアクセスとして重要性を増す香港ビジネス協会世界連盟に入っている日本香港協会の役割とCMMSで華人経営を学ぶことの重要性を強調され、みんなで香港フォーラムに参加しましょうと呼び掛けられました。参加者に喜ばれた良い会でした。

事務局 新規開設のご案内

中京日本香港協会 副会長・事務局長 佐藤 亮一



中京日本香港協会 会長 豊島 徳三氏

中京日本香港協会は、長年に亘り、香港貿易発展局 大阪事務所にて事務を行ってまいりましたが、この度、設立21年目を迎えるにあたり、事務所を本来の名古屋地区に開設し、本年5月17日より、諸事務運営、管理を行うことになりましたので、「飛龍68号」を通じ、日本香港協会・

全国連合会をはじめ各地区への変更(封筒、電話、名刺ほか)案内とさせて頂きたく、連絡申し上げます。

今後は、中京の協会活動を更に充実したものにすべく、新会長(豊島徳三氏)を旗頭に、各理事・各位の協力のもと、名古屋商工会議所会頭・高橋治朗氏(中京日本香港協会名誉会長)のご協力、後援および香港貿易発展局、ほか多々諸々機関との綿密な連絡を図り全国連合会内の一機関としての役割を果たし、活動を進めてゆきますのでご支援のほどお願いいたします。また過日の第106回中京日本香港協会理事会にて諸事項承認されましたので報告と致します。  
\*新事務所は、下記記載のとおりです。

中京日本香港協会 新事務所  
〒460-0003  
名古屋市中区錦二丁目11番27号  
T H 錦ビル 8階  
株式会社 喜齋 内  
電話: 050-3620-2517  
FAX: 052-222-7750  
E-Mail: chukyo.jhks@pearl.ocn.ne.jp

追記として理事会において、協会理事役割分担に伴う組織図の要諦として3部会(文化交流部会、広報・情報部会、経済部会)にて、会員への情報提供・活動を行う旨了承された。

3部会の概要は以下の通り。

文化交流部会

会員懇談会の開催:中京地区の観光地、文化史跡見学等会員相互の親睦他

旧正月パーティの開催:ライオンダンス抽選会等会員間の交流目的としたイベント他  
ワールドコラボフェスタへの参加:毎年1回10月第二土日名古屋市中心栄地区にて世界各国の文化舞踊、食事等多彩な催事により市民に憩いと交流の場を提供(例年香港の文化資料の配布、キャセイパシフィック航空の協力による旅行案内)

広報・情報部会

広東語教室:週1回毎金曜日7:00~8:30pmネイティブスピーカーによる語学学習(香港映画のセリフ習得等)

中国語教室:月2回第二・四火曜日7:00~8:30pmネイティブスピーカーによる運営など

経済部会

日本香港関連ビジネスセミナー開催、本支部交流会、香港フォーラム参加等の経済活動。

上記3部会の担当、計画・実施の機関として、各理事には積極的に参加発言を願う旨取り決めとした。

飛龍 No. 68 2011年8月 発行 (禁無断転載)

**日本香港協会 全国連合会**

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局 東京事務所内  
電話(03)5210-5901 FAX(03)5210-5860

---

**NPO法人日本香港協会(東京)**  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局内 電話(03)5210-5870

**関西日本香港協会**  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

**中京日本香港協会**  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 T H 錦ビル8階  
株式会社喜齋内 電話(050)3620-2517

**九州日本香港協会**  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル  
(社)福岡県中小企業経営者協会内 電話(092)451-8593

**山形日本香港協会**  
〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21  
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110

**北海道日本香港協会**  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11  
北洋銀行国際部内 電話(011)261-4288

**宮城日本香港協会**  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階  
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話(022)212-5552

**沖縄日本香港協会**  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10  
那覇商工会議所内 電話(098)868-3758

**広島日本香港協会**  
〒730-0052 那覇市広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内  
電話(082)248-1400

URL <http://www.jhks.gr.jp>

## 平成23年度 通常総会・講演会・交流会開催

## 九州日本香港協会 事務局

九州日本香港協会では去る7月5日(火)にホテル日航福岡「志賀の間」において平成23年度通常総会・講演会・交流会を開催しました。



石原会長挨拶

通常総会では、まず石原会長より「香港はその経済自由度により高い経済成長を遂げており、発展を続ける中国市場の窓口として今後もその重要性は益々高まっていくであろう。また、今年は辛亥革命100年という記念の年にあたり、梅屋庄吉(長崎)、宮崎滔天(熊本)、安川家(福岡)など、孫文との関係が非常に深い九州が経済関係だけでなく歴史的な繋がりを大切に、九州と香港との関係を深めていくことは大変意義のあることであり、当九州日本香港協会の果たす役割も大切になってくる。この7月29日(金)には香港財閥「新華集団」総裁であり香港中華総商會会頭の蔡冠深(ジョナサン・チョイ)氏の福岡訪問に合わせ、孫文ゆかりの福岡、長崎、熊本の3県知事を交えた「辛亥革命100周年記念フォーラム」(主催:西日本新聞社、共催:九州日本香港協会他)を開催予定であり、この総会を皮切りに九州日本香港協会の活動を盛んに進めていこう」との挨拶がありました。議事においては平成22年度の事業報告や、「辛亥革命100周年記念フォーラム」共催などの平成23年度事業計画、役員を選任について等の審議を行い、いずれも満場一致で可決され、総会は滞りなく終了することができました。

通常総会に引き続き、香港貿易発展局・大阪事務所長のベンジャミン・ヤウ氏による「香港人から見た日本と香港の今後関係」との題目で講演会が行われました。

講演会に先立ち、来賓の香港貿易発展局・大阪事務所次長の田中洋三氏より、香港の情報は中国ほどテレビ・新聞等には出てこず、この講演はそうした意味からも貴重なものと言えるのではとの挨拶いただきました。

講演では香港が1997年の中国返還後も一国二制

度のもと、その経済自由度は変わらず、重要な役割を果たしており、今後も中国の経済成長に伴い、香港はその役割を変化させながら重要性を増していくだろう。特に香港は中国の中でも経済規模、人口の大きい広東省を後ろに控えていることから、今後も持続的な経済成長が見込めると述べられました。

また日本と香港との関係についても、香港は日本に対し非常に好意的であり毎年約10人に1人の香港人が日本を訪れていること、香港の1人あたりの国民所得もアジアでは日本と並び高いことから日本と香港はビジネスパートナーとしてうまくやっていけるだろうとのお話がありました。



ベンジャミン・ヤウ氏

講演後の質疑応答においても出席者から、香港の税制について、香港の不動産価格高騰について、福島第一原子力発電所の風評被害について、香港・珠海・マカオ大橋プロジェクトの進捗状況について、など多くの質問が飛び交い、活況を呈した講演会となりました。

通常総会、講演会の後に行われた交流会は、佐々木副会長の挨拶、並田名誉顧問の乾杯の音頭で始まり、会員どうしの歓談の輪がいくつもでき、和やかな雰囲気での会食となりました。最後に有田理事の閉会の挨拶で楽しかった交流会を終了しました。

平成21年7月に福岡日本香港協会と北九州日本香港協会が統合して九州日本香港協会が発足してから2回目となる通常総会を無事終えることができました。九州日本香港協会は今後もフォーラム、講演会、パーティー等の活動を積極的に行っていく所存でありますので、よろしくお願いいたします。



交流会の様子

## YAMAGATA

山形日本香港協会

### 新会長就任のごあいさつ

山形日本香港協会 会長 渡辺 晃

設立当初から事務局を担当していましたが、4月から、当会の会長になりました。なにぶん不慣れかとは思いますが、よろしく願いいたします。

山形はさくらんぼの季節を迎えようとしています。例年であれば、多くの県内外のお客様であふれるのですが、今年はそのような訳にはいかないようです。3月11日の東日本大震災の影響が、宮城・福島の際である当県にも多大に及んでいます。当地は、蔵王温泉スキー場・出羽三山やさくらんぼ・ラフランスを筆頭にフルーツ&観光王国ですが、来県する観光客は激減し、それらを取り巻くサービス業もどのようにこれからを暮らしていくか悩みに悩んでいます。

先日、日・中・韓の首脳会議が行われ、日本への旅行や輸入の制限を見直してくれる事になりました。今年も多く香港からのスキー客で賑わっていた蔵王温泉スキー場も地震翌日から営業を停止しており、これらの政策決定は大変ありがたく、多くの期待をしたいと思います。同時に、JTBに対する中国内から海外へ出る人向けの旅行業免許がおりたこともニュースになっていましたが、これまた期待したいところです。

「がんばれ東北」。この旗が日本中に掲げられています。山形だけに限定しなければ、東北は実に魅力のある所です。宮城県：芭蕉があまりの景色の良さに絶句し「松島や ああ松島や 松島や」と詠んだ松島。戦国武将伊達政宗の城

下町仙台。ミニ東京化した仙台中心部。

福島県：磐梯山ふもとの湖沼群。江戸時代の雄藩会津若松の城下町風景。

岩手県：今年、再度世界遺産にノミネートされる「中尊寺とその時代の風景群」。リアス式海岸と、世界一の漁場をもつ太平洋。

香港からの直行便のあった仙台空港周辺だけでもこのような名勝地と手つかずの自然が共存。また、そこから採れる数々の食品素材、まさにグルメ天国です。この震災は大きな不幸でしたが、また、東北として一致団結できるチャンスも与えられたのではないのでしょうか。香港協会は宮城と山形にしかありませんが、手を取り合って「東北」を香港に発信していければと思っています。

山形香港協会の設立趣旨は、「街づくりを含めた地域振興を香港に学ぶ」ことでした。人口25万人に満たない街にできた「香港協会」という大それた看板。一時は60人を越えた会員も半減し活動も低迷しています。香港という大きな龍に飲まれ、風呂敷を広げすぎた結果かと思いますが、ここまで来ると後は昇るのみ。個人的に大殺界を抜け出し、種子期に入りましたので、運勢を見ながらそろりそろりとやっていきたいと思っています。誰より尊敬する、坂本龍馬の、下記の短歌を心に秘めがんばっていく所存です。「世の人は 我を何とも 言えば言え 我がなす事は 我のみぞ知る」

## HOKKAIDO

北海道日本香港協会

### アジアビジネスサポートプログラム キックオフセミナー開催

北海道日本香港協会 事務局

はじめに、この度の東日本大震災により被害を受けた方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を祈念いたします。

震災の影響により、日本製品に対する世界各国の目が厳しさを増している今こそ、安心・安全・美味の北海道ブランドをアジア各国に向けてPRし、道産食品の販路拡大に繋げようと、札幌商工会議所、札幌市、さっぽろ産業振興財団の主催、JETRO、北海道国際ビジネスセンター、北海道商工会議所連合会の共催、中小基盤整備機構の後援のもと、「アジアビジネスサポートプログラム」がスタートしました。このプログラムは、①道産食品の販路拡大支援 ②海外市場のリアルレポート ③技術提携・現地リサーチの3コースを設け、アジア経済や市場動向、現地との関わり方について、各界の第一人者の方をお招きして、セミナーや個別相談を実施するもので、年間20回の開催を予定しています。

5月31日にはキックオフセミナーとオリエンテーションが開催され、北海道日本香港協会会員企業を含む多くの道内企業が参加しました。基調講演では、日本香港協会全国連合会会長の賤前宏氏が、「香港の活用法と中国経済

の一つの見方～アジアビジネスサポートプログラムの発足に向けて」をテーマに、香港と中国本土での震災の影響、香港の活用法、中国経済が抱える問題点等について、具体的事例を交えながらお話し頂き、参加された方々は興味深く且つ熱心に聴講されていました。

震災後減少していた北海道を訪れる外国人観光客も回復の兆しが見え始め、ビジネスにおいても以前の活気が戻りつつあります。北海道日本香港協会事務局では、北海道と香港のビジネス、文化の交流が益々活発化するよう、取り組んで参ります。



熱心に聴講する参加企業の皆様

## 巨大地震大津波が宮城を襲う

宮城日本香港協会 事務局 武田 功



県南部名取市海岸部の被害状況

3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震・大津波が発生しました。関東大震災のM7.9を上回り、1923年に日本で近代的な地震観測が始まって以来最大級のもので、5月23日現在の宮城県の被災者は、死者8,918人、行方不明者5,300人、避難者29,785人、半壊以上の居住建物82,400戸となっております。

当協会の会員も例外ではなく、石巻に本社や支社を持つ企業もあり、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈っております。

さて、当協会も震災後初の会合として、昨年度の事業決算と今年度の活動に向けて、去る5月10日(火)、理事会を開催しました。忙しい中、8名の役員と1名の参加者が出席、活発な議論が展開され、総会は9月に、女性部会主催のチャリティ・コンサートを8月に開催すること、昨年中止したクリスマスパーティの再開、そして会員被災者へのお見舞いや激励の方法などが話し合われ、決定されました。

今年度は、災害の影響もあり、4月のお花見会を中止するなど、行事については変更することありますが、会員一同、力を合わせて頑張っておりますので、全国の皆さん、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、8月のチャリティー・コンサートですが、「2011年3月11日…一瞬にしてすべてが変わってしまったあの日…早いもので8月には新盆を迎えます。この時期に亡くなられた多くの方への鎮魂と、被災された皆様へ音楽を通じた癒しと「ひびき合う心」をコンサートとして送ります。何もできない私たちですが、いつも一緒にいるよというメッセージをこめてお届けします。」とのコンセプトで開催します。奄美シマウタ唄者・朝崎郁恵、音楽家・吉俣良、舞踏家・倭瑠七等に出演いただき、NPO法人「美・JAPON」の全面的な協力を得て、8月11日(木)常盤木学園高等学校シュトラウスホールに於いて開催いたします。



被災した石巻漁港



名取市内の被害状況



石巻市内の被害状況

沖縄日本香港協会 事務局



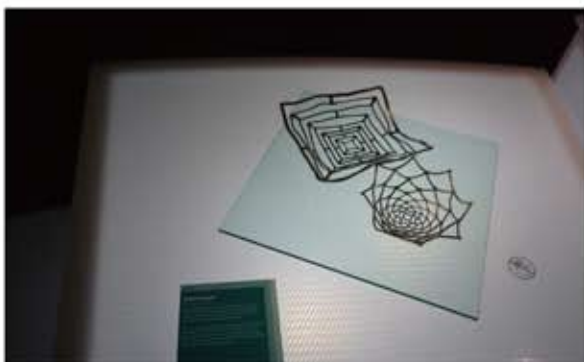
イノベーション&amp;デザインテクノロジー・エキスポ2010

昨年11月、香港フォーラムに参加した際、「イノベーション&デザインテクノロジー・エキスポ2010」を見ることができた。同エキスポは、「最新技術やデザイン・ソリューションを提供、貿易、製造及びサービス・セクターの潜在能力を引き出し、世界市場への進出を支援するワールドクラスの展示会」と位置づけられているが、ヨーロッパ各国をはじめ、日本、アジアなど多くの国がブースを構え、分野にとらわれない様々なデザインが一堂に会することにより、世界のインダストリアル・デザインの大きな流れを「感じる」ことができる絶好の機会であった。

イギリスはダイソンの掃除機、ドイツはメルセデスベンツのスポーツカーを展示、イタリアのモダンな家具は見るだけでも楽しい。

特に今回は「ジャパン・ウィーク」と題し、日本の企業・デザイン事務所から多くの参加があり、最新の日本のデザインが一堂に会するエキスポは、日本人である私でも興味深く見ることができ、大いにインスピレーションを掻き立てられた。

高岡の錫でできたバスケットは、独特の光沢・質感と金属とは思えない柔軟性とシンプルなデザインがすばらしい。



高岡の錫製のバスケット



テーブルと一体となった電子ピアノ



九州新幹線つばめのシート

ヤマハのテーブルと一体になった電子ピアノの大胆なデザインは、ピアノの周りにひとが集まり音楽を共有することがコンセプトだ。水戸岡鋭治氏デザインの九州新幹線つばめのシートには、柔らかい曲線を描く木製の板が使用されていて、木の温もりが伝わる肘掛は、海外から観光客にも好評であろう。富士山をイメージした「フジヤマ グラス」には思わず微笑んでしまう。北欧や韓国・中国の家電メーカーの急成長は、価格戦略だけではなく、デザインの向上も大きな要因の一つといわれている。



富士山をイメージしたグラス

これからのデザインは単なる「見栄え」や「着せ替え」ではなく、スマートフォンのように、デザインと機能が一体となることにより、新たな製品・価値を創造するようになると思う。

香港でおこなわれたこのエキスポで、伝統美や美意識に裏打ちされた日本のデザインは、充分競争力を持っていると再認識できた。とかく日本人は「見た目より中身だ」とよく言うが、今後、世界の舞台では「見た目も大事だ」と意識を変えていかなければならないと感じた。

## 香港企業招待など多彩な事業計画

広島日本香港協会 事務局

## 新会長就任

大田哲哉前会長の広島県商工会議所連合会会頭辞任に伴い、平成23年4月18日付で新たに深山英樹氏が会長に就任されました。新体制の下、香港を通じてのビジネス交流を一層深めていけるような協会にしたいと思っております。



深山英樹会長

## (深山会長 略歴)

1964年広島ガス株式会社入社。総合企画部、総務人事部等を経て2002年に代表取締役社長に就任。2010年4月、代表取締役会長就任。2010年12月より広島商工会議所会頭、広島商工会議所連合会会頭、現在に至る。



ヤウ所長の講演

総会の後、香港貿易発展局大阪事務所ベンジャミン・ヤウ所長に、「香港人から見た日本と香港の今後の関係について」と題して講演を行っていただきました。東日本大震災が起こって1ヶ月半、香港政府や民間団体からの手厚い支援・エールをもらう反面、放射能による不安が報道され、香港政府による日本への渡航禁止勧告や、風評被害も甚大なものであるのは皆様周知の如くです。幸い、多数の香港市民が日本を支持し、4月中旬には日本への観光ツアーが再開されるなど、マイナス要素ばかりではないことを強調されました。また、全国人民代表大会で採択された第12次五カ年計画に、香港・マカオに関して初めて独立した章が設けられたことで、香港の今後の位置づけが確定したことについて触れられ、「Quality」の日本と「Market」の中国の間に立つ、「Marketing」香港の今後の役割が重要になっていくことを話されました。会員にとっては、まさに最新情報が入手出来た非常に有意義な講演でした。

講演の後の懇親会は、会長の挨拶に始まり、奥原副会長の音頭で乾杯、なごやかな雰囲気の中、会員皆さんが会話に花を咲かせていました。

3月の震災の影響により、我が国が経済・産業面において厳しい状況を強いられている中、相対的に被害の少ない広島県の会員企業が率先して行動を起こしていくことで、国内外のビジネスをより活発にしていけるよう取り組んでいく所存です。

## 平成23年度通常総会開催



深山会長による総会進行

去る4月25日(月)に、オリエンタルホテル広島にて平成23年度通常総会・懇親会を開催しました。会員41名が参加し、深山英樹新会長の司会により議事が進められました。平成22年度事業報告・決算報告、平成23年度事業計画・予算案は無事承認され、新たな年度に向けて事業を行っていくこととなりました。本年度は、香港貿易発展局と連携し、県内企業の海外ビジネス展開の支援を通年行っていくことに加え、メイン事業の一つとして、香港企業を招聘しての商談会を実施する予定です。特に会員企業内から要望の多かった①環境関連②食品関連③観光関連の3分野に焦点を絞り、それぞれのニーズに合った企業を招聘し、会員企業の今後の海外販路拡大の支援をしていきます。



なごやかな雰囲気で行われた懇親会



# Legend reimagined

便利なロケーションはそのまま、コンテンポラリーなデザインに生まれ変わりました



A member of Harbour Plaza Hotels and Resorts  
A Hutchison Whampoa and Cheung Kong Holdings Company

お問い合わせ：ハーバープラザ東京事務所  
03-5413-5780 Eメール: rep.tokyo@harbour-plaza.com